

科目名	脱臼総論								年度	2024
英語科目名	The dislocation general remarks								学期	後期
学科・学年	柔道整復科 1 年次		必／選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	有山敦士		教員の実務経験		有	実務経験の職種		柔道整復師（接骨院にて勤務経験あり）		
【科目の目的】										
柔道整復師の業務範囲である脱臼の基礎を学ぶ。関節の構造とその損傷においての治癒機序、脱臼の固有症状、整復障害因子などを学ぶ。										
【科目の概要】										
各外傷に対応する柔道整復術の基礎を学びます。										
【到達目標】										
骨・筋や関節の生理的機能を理解し、関節損傷における物理的外力や症状などを学び柔道整復師の業務で要求されるレベルで説明できるようにする。特に脱臼の発生、症状、合併症などを学び、各論に進んだ際、理解を深めるための基礎となる事を到達目標とする。										
【授業の注意点】										
医療人としてのキャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。また、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。										
評価基準＝ルーブリック										
ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力					
到達目標 A	関節の構造についてよく理解し、説明ができる。	関節の構造についてよく理解している。	関節の構造について理解している。	関節の構造についてあまり理解していない。	関節の構造について全く理解していない。					
到達目標 B	関節の損傷についてよく理解し、説明ができる。	関節の損傷についてよく理解している。	関節の損傷について理解している。	関節の損傷についてあまり理解していない。	関節の損傷について全く理解していない。					
到達目標 C	脱臼の発生、分類についてよく理解し、説明ができる。	脱臼の発生、分類についてよく理解している。	脱臼の発生、分類について理解している。	脱臼の発生、分類についてあまり理解していない。	脱臼の発生、分類について全く理解していない。					
到達目標 D	脱臼の症状についてよく理解し、説明ができる。	脱臼の症状についてよく理解している。	脱臼の症状について理解している。	脱臼の症状についてあまり理解していない。	脱臼の症状について全く理解していない。					
到達目標 E	脱臼の合併症、整復障害因子についてよく理解し、説明ができる。	脱臼の合併症、整復障害因子についてよく理解している。	脱臼の合併症、整復障害因子について理解している。	脱臼の合併症、整復障害因子についてあまり理解していない。	脱臼の合併症、整復障害因子について全く理解していない。					
【教科書】										
南江堂 柔道整復理論 改訂第7版－社団法人 全国柔道整復学校協会 監修－に準拠する。										
【参考資料】										
【成績の評価方法・評価基準】										
定期試験による評価										
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。										

科目名		脱臼総論			年度	2024
英語表記		The dislocation general remarks			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	関節の構造	関節構造の違いは何か。	1 関節の構造	関節とは何かを理解している。	3	
			2 滑膜性の連結	滑膜性の連結について説明できる。		
			3 軟骨組織	軟骨組織の分類を理解している。		
2	関節軟骨	関節軟骨はどのような構造をしているのか。	1 関節軟骨の特徴	関節軟骨の特徴を説明できる。	3	
			2 軟骨の細胞	関節軟骨の細胞層を理解している。		
			3 軟骨基質	軟骨基質について理解している。		
3	関節損傷	関節損傷とは何か。	1 加わる力	関節損傷に加わる力について理解している。	3	
			2 性状による分類	関節損傷の性状による分類を理解している。		
			3 創部との交通	損傷関節部と創部が交通した場合について理解している。		
4	脱臼	脱臼とは何か。	1 外力の働き方	直達外力と介達外力について説明できる。	3	
			2 脱臼の定義	脱臼の定義を述べることができる。		
			3 脱臼の発生頻度	脱臼の発生頻度について理解している。		
5	病的脱臼	病的脱臼はどのような場合に発生するのか。	1 病的脱臼	麻痺・拡張性・破壊性脱臼を理解している。	3	
			2 脱臼の程度	完全脱臼、不全脱臼を理解している。		
			3 関節相互の位置	関節相互の位置における名称を理解している。		
6	脱臼の分類	脱臼を分類するとどのようなものがあるのか	1 脱臼部と創部	開放性・閉鎖性脱臼の説明ができる	3	
			2 直達と介達外力	直達・介達外力による特徴を理解している。		
			3 先天性脱臼	先天性脱臼の特徴を理解している。		
7	脱臼固有症状	脱臼の症状はどのようなものがあるのか。	1 一般外傷症状	一般外傷症状を理解している。	3	
			2 弾発性固定	弾発性固定について説明ができる。		
			3 関節部の変形	関節部の変形について理解している。		
8	振り返り	前半を振り返る	1 関節損傷	関節損傷について理解している。	3	
			2 関節軟骨	関節軟骨の構造について理解している。		
			3 脱臼	脱臼の発生、特徴、症状を理解している。		
9	脱臼の合併症	脱臼の合併症にはどのようなものがあるのか。	1 骨折	骨折の合併について理解している。	3	
			2 血管神経損傷	血管・神経損傷の合併について理解している。		
			3 軟部組織損傷	軟部組織損傷の合併について理解している。		
10	脱臼整復障害因子	脱臼の整復を障害する因子には何があるのか。	1 ボタン穴機構	ボタン穴機構について理解している。	3	
			2 掌側板種子骨の嵌入	掌側板及び種子骨の嵌入について理解している。		
			3 骨部の骨折による欠損	整復の際支点となるべき骨部の骨折による欠損について理解している。		
11	靱帯・関節包損傷	靱帯や関節包が損傷するとどのような経過をとるのか。	1 関節拘縮	関節拘縮と強直の違いを理解している。	3	
			2 損傷程度による分類	靱帯損傷の分類を理解している。		
			3 靱帯の治癒機序	靱帯の治癒について理解している。		
12	関節軟骨損傷	関節軟骨損傷はどのような様な修復をたどるのか。	1 発生機序	発生機序について理解している。	3	
			2 症状	関節軟骨損傷時の症状について理解している。		
			3 損傷程度	関節軟骨損傷程度による修復の違いについて理解している。		
13	関節構成組織損傷	関節内の構成組織損傷には何があるのか。	1 関節唇損傷	関節唇損傷について理解している。	3	
			2 関節半月損傷	関節半月損傷について理解している。		
			3 関節円板損傷	関節円板損傷について理解している。		
14	振り返り	後期の振り返り	1 脱臼の合併症、整復障害	脱臼の合併症、整復障害について説明ができる。	3	
			2 靱帯損傷	靱帯損傷について説明ができる。		
			3 関節軟骨損傷	関節軟骨損傷について説明ができる。		
15	滑液包・血管神経損傷	滑液包や血管・神経損傷ではどのような症状となるのか。	1 滑液包損傷	滑液包損傷について理解している。	3	
			2 血管損傷	血管損傷について理解している。		
			3 神経損傷	神経損傷について理解している。		

評価方法：1. 小テスト、26. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等